

# 石井了介版画展

## 白秋の詩歌で綴る～思い出の世界～

白秋が幼いころに遊んだ柳川や南関や瀬高のうたをテーマに石井了介は白秋詩歌版画集「白秋ふるさとシリーズ」を制作しました。

今回の展示では、石井了介の作品と白秋の詩歌を紹介します。

すいきょうやながわ

※

また水郷柳河写真集『水の構図』より、作品に関連する写真パネル、白秋が石井の才能を認め自身の書籍に載せた口絵・挿絵も併せて展示します。

石井了介は、白秋が生まれ育った柳川、南関（白秋母の里であり石井の故郷）、瀬高（白秋姉の嫁ぎ先）など白秋が故郷を詠んだ詩歌を多色摺で版画化し詩情あふれる作品としています。

また白秋の詩歌が心象風景となり、その抒情的な作品の表現に感動します。

白秋と石井の織りなす作品を通して二人の深く愛した故郷への想いを感じていただきたいと思います。

すいきょうやながわ

※水郷柳河写真集『水の構図』は白秋が世に送った遺書ともいえます。

詩人・白秋は故郷柳川を愛し柳川に生まれ、日本の心を次々と詩に詠みあげました。

カメラマンは白秋の童謡の門下生でもある田中善徳。昭和10年代の柳川地方の風物を白秋の香り高い詩に田中善徳が師の心を心とし愛情のレンズを通して、水の豊かさとかくらしの断面を卓越した技術で写し出しています。



蜘蛛手棚



南関 石井家

写真：水郷柳河写真集『水の構図』より